

1 題材名 重なり合うイメージで自己を表す

2 題材設定の背景

題材観

本題材は、自己を主題とし、前期に行った「自己と向き合う自画像」とも関連がある。自己を主題として扱う題材は、自身を内面から見つめ直し、じっくりと向き合う時間となる。自分について思い浮かべるとき、長所だけでなく短所も同時に想起されうる。努力や興味をもとに長所や特技を楽観的に認識することもあれば、他者や理想の自分との乖離をコンプレックスとして捉えて悲観的になることもある。9年生(中学3年生)の後期は、志望校や進路、生き方を特に突き詰めて考える時期であり、他者との比較で悲観し、目標と自身とのギャップに思い悩み、誰しもが自信を喪失しうる。そのような時期において、長所や短所を越えた「自分らしさ」の承認や受容がなされ、複雑な思いや心情に対する共感があることは、子供にとって大きな支えとなり、肯定的効果をもたらす。また、他者を受容し、思いや心情に共感することは、自分を否定することに同義ではない。受容や共感の促進によって、自分自身にも肯定的ないし前向きな心の動きが働くことで、自他ともに受け入れ、「ありのままの自分」を認めることができると考える。

生徒観

「自己と向き合う自画像」完成後アンケートで、自己(心情・内面・人柄・思いなど)表現の達成に対する表現方法ごとの問いかけに対し、肯定的回答率は、①「全体」が95%、②「具象表現」が89%、③「抽象表現」が93%で、①と③が特に多かった。②の理由は、デッサンにおける複数回の修正や手の進まなさが挙げられ、再現性や技能面の苦手意識が要因だと考えられる。

集団観

表現や鑑賞への主体的な取り組みに対する肯定的回答は95%以上で、前向きかつ協同的に学習に臨もうとする雰囲気がある。活動でつまずきがある場面も見られる一方で課題に対して前向きに取り組もうとする様子もみられるため、全体として協調しながら物事に取り組もうとする風土を生かし、交流しやすい環境設定により、相互が学び合えるように手立てを講じることとする。

指導観

感じ方や考え方にかかわる見方や捉え方を広げ、思いを表出しながら豊かな構想を練られるように、生活班のペア交流を基本とした制作や鑑賞活動を行う。制作場面でつまずきのある生徒の選択的表現や試行錯誤のヒントとなるほか、鑑賞場面においても完成作品だけでなく制作過程も踏まえた受容的な気づきや肯定的な発見を伴う対話が生まれることを意図している。子供の対話がより受容的かつ共感的なものとなるように、表現導入場面における教師の自己開示や子供のエピソード紹介を行う。

3 題材の目標及び計画(全5時間)

■題材の目標

自分の内面や自分らしさを基に主題を生み出し、意図に応じて自分を表すものを具象表現で表出したり、自己の思いや心情を抽象表現で造形的特質などを生かして表す構想を練ったり、他者と交流をしながら自分を見つめ直したりする中で、イメージや表現の再構成を繰り返しながら、感じ方や考え方を深めることができるようにする。

■題材の計画

- 第1次 具象モチーフや形・色のイメージを考えるグループ交流による表現活動・・・・・・1時間(本時)
 第2次 自己を表すモチーフ(具象表現)、自己を表す形や色(抽象表現)、構成・・・・・・3時間
 第3次 表現内容や過程に対する受容と共感を介した自己の承認を伴う鑑賞活動・・・・・・1時間

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
形や色彩の性質や、感情にもたらす効果等を理解し、造形的特徴などを基に、作品の全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。また、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。	自己の内面や自分らしさと向き合い、思いや感情、人柄といった自分の内面などを基に主題を生み出し、象徴するものを考えて具象表現と抽象表現の両方の特質を生かした創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構成を練っている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に自己を具象表現と抽象表現の構成で生み出す表現活動に取り組もうとしている。また、美術の鑑賞活動の喜びを味わい主体的に他者の自己が表現された作品の鑑賞活動に取り組もうとしている。

5 本時の学習

■目標 自分や他者の人柄・価値観などの内面や「自分らしさ」を主題として、それぞれの「自分らしさ」に合った具象モチーフや形・色のイメージについて考えたことや感じたことを交流しながら、アイデアの交流や対話を通して気づいたことや思ったことなども参考にして、試行錯誤しながら表現することができる。

■「受容と共感を促す手立て」

子供の受容と共感を促すために、他者による肯定的な見方や前向きな捉え方が相互の感じ方や考え方を広げるきっかけとなり、苦悩や不安を抱える中でも自分らしさが認められることが支えになることを伝える手立てを講じ、表現されたものから前向きに感じ取ったことや考えたことをもとに、対話の中で相手の「自分らしさ」や「ありのままの自分」を肯定的に捉えた内容を伝えることの意義を認識して、表現内容やその意図をもとにした受容と共感を深められるようにする。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全 : 全体の場 小 : 小集団 個 : 個人) ㊟ : 留意点 ㊦ : 評価の観点 (方法)

学習事項	生徒の活動・予想される生徒の発言	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 「自分らしさ」を想起し、それに対する捉え方を共有する。 ・好きな所と嫌いな所がある。 ・人の意見に共感しながら話を聞くのは自信がある。 ・優柔不断で流されやすい。 (2) 短所のリフレーミングをすることの意義に関してエピソードを基に再考し、認識する。 ・自分が思っていることをうまく話せないというのは、相手への伝わりやすさを考える思いやりの気持ちがあるのでは。 ・自分もネガティブ思考だな。 ・短所を別の視点から見直し、ペア人のコンプレックスも見方を変えて伝えたい。	(1) 長所と短所の認識を問い、「自尊心」の大切さを再確認する。 ・長所・短所があると思うか。 ・光輝で自尊心(ありのままの自分を尊重する心)やリフレーミング(別の視点)を学んだね。 (2) 生徒や教師自身のエピソードを紹介し、短所の捉え方の変化を考えられるようにする。 ・話すのが苦手なペアに「相手のことを考えている」と伝えた。 ・ネガティブ思考で落ち込んでいると責任感や向上心があると転換する言葉を受けた。 ・9年生の様子や傾向、よさを挙げ、本題材の意義と目的を伝える。(温かさ。心の支えになる。)	(全) 生徒全員がテーマについて共通認識をもつことができるようにするため。 (全) → (小) エピソードを共有して、リフレーミングや題材の意義を認識するとともに、対話しながら自分なりに物事の捉え方や見方について考えられるようにするため。
2. 学習課題の設定	(3) 学習課題を設定する。 お互いの「自分らしさ」を考えながら、それに合うモチーフや形・色を試行錯誤して表そう	(3) 今回の活動のテーマや大切にしたいことを問いかけながら、学習課題を共有する。 ・表現のテーマは？活動の中で大切にしたいことは？	(全) 導入の内容を踏まえて、全体で要点や目標を共有するため。
3. 学習課題の追求	(4) 自分とペアの「自分らしさ」を考え、モチーフや形・色を意図に応じて選んで表す。 ・ペアの〇〇さんは何事にも地道かつ丁寧に取り組んでいる。ツバメのイメージが合いそう。 ・自分は好奇心旺盛だから人懐こく活発な印象の犬にしよう。 ・穏やかで優しい人柄は黄緑と桃色で表すのはどうだろう。 (5) 生活班の人とアイデアを交流し、コメントを伝え合い、表現のヒントにする。	(4) 活動の手順を確認した後、「自分らしさ」を複数考える時間を設け、表現に活用できる描画材を用意しておき、徐々に表現へ移行できるようにしておく。 ・「自分らしさ」に合うモチーフは？モチーフ等のイメージを考えてから選んでもいいね。 ㊦意図に応じて選択や表現の工夫をしている。(ワークシート) (5) 表現された「自分らしさ」や相手のイメージに合う表現について問いかける。	(全) (個) → (小) 他者の意見を聴く前の自分の考えを明確にした上で、捉え方や見方の変化に気づきながら意図に応じて選択し、表現できるようにするため。 (小) 複数名の意見を知るため。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 活動を振り返り、感じたことや思ったことをまとめる。 ・捉え方で見方も変わる。続けて表現の工夫を考えていきたい。	(6) 活動前後の変化も問い、深まりのある気づきにつなげる。 ・交流を通して、どのような変化や気づきがあったか。	(個) 自分の感じ方や考え方をまとめる時間とする。